

津波災害から身を守る行動を

■問合せ…市民安全課 (☎025-520-5660)
危機管理課 (☎025-520-5665)

昨年1月1日に発生した能登半島地震によって、当市は初めて津波災害を経験しました。市では、発災時の初動対応や応急対策を振り返り、主に「情報発信」と「住民避難」の視点から課題の抽出と要因の分析を行い、今後採るべき方策を取りまとめました。

この検証結果を踏まえ、市では引き続き、災害に強いまちづくりを進めていきます。市民の皆さんにおかれては、改めて、**災害リスクを知る**、**取るべき避難行動を学ぶ**、**日頃から備える**取り組みをお願いします。



検証の内容は、
市ホームページで
ご覧いただけます



災害リスクを知る

「津波ハザードマップ」、「防災ガイドブック・避難所マップ」で市内の災害リスクを確認しましょう。

- 自宅や勤務先、普段よく行く場所は、津波による浸水が想定されているエリア内ではありませんか？
- 津波浸水想定エリア内の場合、避難場所（高台、指定避難所や津波避難ビル）と、そこまでの経路は確認できていますか？



津波ハザード
マップ



防 災
ガイドブック

避難行動を学ぶ

家庭や地域・職場で、津波避難時に取るべき行動を繰り返し確認しましょう。

- 大きな揺れを感じたときに、どこにいるかによって、取るべき行動が変わります（右図のとおり）。
- 津波からの避難は、原則徒歩で。
- ただし、自力での避難が難しい避難行動要支援者などは、各町内会の地域別避難行動計画に基づき車による避難も可能です。



津波ハザードマップで**白地**のエリアや、掲載されていない地区にいる人は

津波避難の必要はありません！

- 余震や自宅の倒壊などに不安を感じる人は、迷わずに指定避難所に避難してください。

津波ハザードマップで**赤や黄色**に塗られたエリアにいる人は

- 速やかに**高台、指定避難所や津波避難ビル**に避難してください。
- 車での避難は渋滞に巻き込まれるおそれがあるため、**可能な限り徒歩**で避難してください。



日頃から備える



- 各自が3日間は自力で生活ができるよう、非常持出品や備蓄品を用意しましょう。



非常持出品・備蓄品リスト
(防災ガイドブック)

Check!

市ホームページ「防災の手引き」では、防災に役立つ情報を災害種別ごとにまとめて掲載しています。ぜひご活用ください。



防災の手引き